

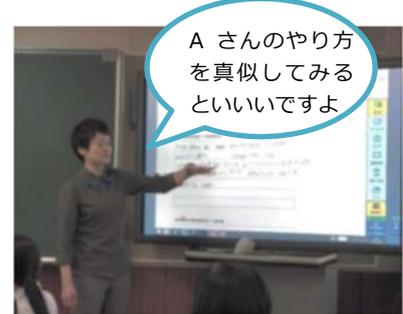
●利用ソフトウェア：OneNote 授業支援システム 市販のデジタル教材(電子黒板用)



これまでの蓄積 OneNote

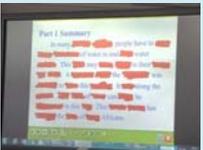
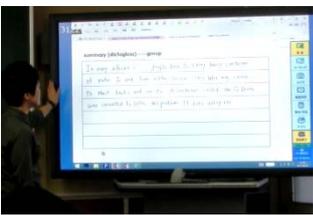


手で生徒画面を確認して投影



生徒の良さをすぐにシェア

授業の様子

学習活動	ICT 活用ポイント
①本文を読み、文章の大まかな内容をつかむ。 	生徒は紙の教科書をじっくりと読んでいました。その間に先生は電子黒板の準備。デジタル教材の本文を提示し、単語にマスキングを施します。
②デジタル教材の音声読み上げ機能によりリスニングし、OneNoteのワークシートにスタイルラスペンを用いて英文で表現する。 	このクラスは選択授業だったので、ここで授業支援システム (SKYMENU) のグループ選択をします。そして、OneNoteのワークシートを配布。生徒のOneNoteは前回までのワークシートがきちんと整理されていて、いつでも復習できるようになっていました。電子黒板で本文を再生し、生徒は分かるところからワークシートに英文で表現していきます。
③3人組になり、ワークシートをもとに話し合い、文章を構成する。 	3人組では、OneNoteのワークシートをもとに話し合います。話し合いでは「ここはmayの後けん動詞か副詞やろ?」「ここは複数形にせんばよ」等、英語表現で気をつけるポイントに基づいて話し合っていました。
④クラス全体で各グループから出た意見をシェアリングしながら、文章を構成する。 	グループで話し合った後、数名のOneNoteのワークシートを授業支援システム (SKYMENU) でシェアリングしながら、文章全体を構成していきました。複数の生徒の画面を大きく映し出すことで、発表も積極的です。電子黒板のマスキングを外しながらポイントを示していきました。
⑤本文に関する設問を解き、概要をまとめる。 	本文の設問を教科書で確認しながら、電子黒板でチェックしていきます。
⑥本時を振り返り、次時について知る。	生徒は今日のワークシートを見て、振り返ります。